

彼女に残された時間が 刻々となくなっています

毎日1分間に1人の割合で、開発途上国の女性が妊娠ともなう合併症などで命を落としています。年間の死亡件数は約529,000人にも
のぼるとされていますが、その大半は未然に防ぐことができたはずのものです。その解決策は「アクセス(利用できる)」という1つの言葉で言い表すことができます。
情報が「利用できる」こと。避妊法を「利用できる」こと。そして、出産の前後と分娩に必要な質の高いケアを「利用できる」こと。

1994年にカイロで開催された国際人口・開発会議(ICPD)では、179カ国の代表が、“2015年までにリプロダクティブ・ヘルスサービスを
全ての人ができるようになる”という目標を達成することに合意しました。それからの道りは厳しいものでした。家族計画は妊産婦死亡を
防ぐ上で、まず最初にとられるべき効果的な方法であるにもかかわらず、そのために提供される世界的な資金援助の総額は、過去10年間で
40%近くも減少したのです。

2006年、バンコクで世界の国会議員や大臣らが一堂に会し、ICPD「行動計画」を実行に移すという公約を再確認しました。
しかし、そのためには実際の行動が伴わなければなりません。リプロダクティブ・ヘルスへの法律面、財政面での支援がなければ、これからも
1分毎に新たに1人の女性が死に至ることになります。こんなにも多くの女性が不必要に死んでいくのを見過ごしてよいのでしょうか？

時は刻々と過ぎていきます。

もしあなたの余命があと1分だけと宣告されたらあなたはどのようにしますか？



www.unfpa.org

